

No.134



昭和51年12月15日創刊

宮城県登米農業改良普及センター
 ～人と技術が織りなす活力ある登米農業～

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
 TEL (代)0220-22-6111 FAX 0220-22-7522
 E-mail : tmnokai@pref.miyagi.lg.jp
 URL : <https://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai>



キャベツ畑 (米山町)

いちごハウス (米山町)

りんごほ場 (中田町)

「共創力強化」

所長 鈴木 秀彦

県では、令和3年度を初年度とする「みやぎ食と農の県民条例第3期基本計画」を策定しました。豊かな食、儲ける農業、活力ある農村を次の世代につなげるためには、農業者のみならず食に関係する全ての事業者や消費者が共に連携・協働することが重要であるとの考えの下、「共創力強化～多様な人材が豊かな未来をつくる みやぎの食と農～」をキャッチフレーズに掲げています。

登米地域においても人材の確保や事業者の理解等は、重要な課題となっております。みんなで協力し合いながら農業の振興を進めていきましょう。

さて、本年度においても新型コロナウイルス感染症は猛威を振るっております。接触機会を減らすため、リモートでの会議等が広まっております

が、生産現場における技術や支援等については、やはり現場での確認、指導等が不可欠なものがあります。十分な感染防止対策をとった上で、現地での対応を進めていきますので、お互いに感染防止に努め対応をよろしくお願いいたします。

本年度は、登米農業の持続的な発展と農村振興に向け、土地利用型経営体等の経営効率化、園芸や畜産経営の体質強化、アグリテックの導入や効果的な活用、環境と調和した持続可能な農業の推進を図ることを中心に、「土地利用型農業法人の体制整備」、「きゅうりの環境制御技術」、「水稲乾田直播栽培の技術向上」の3課題を重点に、所員全員で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

プロジェクト課題活動の紹介

No.1 土地利用型農業法人の体制整備による経営安定

株式会社石ノ森農場は、中田町で水稻+野菜+花きを経営する一戸一法人です。所得向上と周年雇用を図るため、平成28年から施設きゅうり栽培（25a）に取り組み、令和元年度に環境制御設備付施設（50a）を増設し、令和2年の抑制栽培から作付が開始されています。

昨年は、定例会議の開催に向けた打合せや先進事例視察研修、GAP手法に基づく2S（整理整頓）の実施などに取り組みました。今年度は、社内体制づくりのため以下の活動支援に取り組みます。

○作付計画、労働配分への支援

経営の基幹品目となっているきゅうり部門の作業時間や労働配分状況を分析し、次期生産計画の作成を支援します。

○定例会議による社内体制確立への支援

社内での情報共有や作業連携の向上を目指し、リーダー会議の定着や部門毎のスタッフ会議を支援します。

○GAP手法を用いた生産管理支援

きゅうり部門を中心に、GAP手法を用いてリスク管理や作業効率化を図りながら、安定した生産体制づくりを支援します。



株式会社石ノ森農場のみなさん

No.2 きゅうり環境制御技術のスキルアップによる生産拡大

JAみやぎ登米胡瓜部会では、平成30年度から収量向上を目指し環境制御技術導入に向けた活動が行われています。普及センターでは、実証ほを設け、環境測定機器の導入による栽培環境の見える化を行い、データを確認しながら管理や炭酸ガス施用の効果的な実施方法等を検討しています。

本プロジェクトでは、環境測定機器導入ほ場での環境制御技術実践支援及び産地への技術普及に向けた活動を行います。

○環境制御技術実践支援

環境制御技術導入者に対し、環境制御技術のスキルアップに向け、技術向上研修会の開催や栽培管理にかかる環境測定データの活用支援を行います。

○環境制御技術取組推進

環境制御に関する技術情報や環境制御技術導入者の実践状況を発信し、当技術の普及拡大を図ります。



炭酸ガス施用(中央のダクト)

No.3 水稻直播栽培技術の向上と安定生産

地域農業の担い手の規模拡大に伴う農繁期の労働力不足、業務用米や輸出用米需要の高まりの中で、水稻直播栽培による作業分散や省力・低コスト化が注目されています。

登米市内の直播栽培面積は、平成29年度の380haから令和2年度は533haと、3年で40%増加しました。そのうち乾田直播が375haで大部分を占めます。

そこで、乾田直播栽培の技術改善と省力・低コスト化の評価を行い、さらなる普及を図るため、管内の3経営体を対象に、今年度から2年にわたってプロジェクト課題を展開します。

○水稻乾田直播の栽培体系現状把握とコスト分析

乾田直播栽培におけるコストの分析を行うとともに、栽培技術のポイントをまとめ、栽培暦の見直しを行います。

○水稻乾田直播の収量安定支援

調査ほを設置して定期的に生育状況を調査し、稲作通信の発行による調査結果のフィードバックを行い、乾田直播技術の向上と収量の安定化を図ります。



グリーンドリルによる播種作業

登米地域における野菜の生産振興に向けて

普及センターでは、登米市、JAみやぎ登米と連携し、みやぎ園芸振興戦略プランの中で「登米圏域産地戦略プラン」を策定し、きゅうりやキャベツなど9つの県戦略品目と、ゆきななど6つの地域戦略品目を重点振興品目に掲げ、関係機関が連携して登米地域の野菜生産の振興を図っています。重点振興品目の取組みとしては、宮城県農業・園芸総合研究所と連携し、県が育成したいちごの新品種「にこにこベリー」の導入と栽培技術向上に向けた支援や実需であるカルビーポテト株式会社と連携した加工用ばれいしょ栽培の普及拡大に向けた支援、JAみやぎ登米の各野菜生産部会の活動を通じ、施設及び露地野菜の生産振興に取り組んでいます。今後はさらに、施設野菜で近年注目されている環境制御技術の導入、露地野菜では、ほ場整備によって汎用化が図られた水田を活用した野菜の生産や機械化体系の導入など、先進的な技術の導入や新たな生産体制の構築に向けた取組みを進めていきます。



ばれいしょ収穫

地域の若い担い手募集中!! 登米市4Hクラブ

登米市4Hクラブでは、水稻や園芸、畜産、農業法人の従業員など、様々な農業に携わる17人の青年農業者が、農業知識・技術の向上を図り、地域農業の発展を目指して活動しています。

クラブでは、日々の出来事や趣味の話など他愛の無い話題や新しい技術についての情報交換でいつも盛り上がりします。新型コロナの影響で顔を合わせた活動が難しい中、Web会議システムを活用してクラブ員同士が繋がり、十分な対策を取った上で先進地視察研修や耕作放棄地を活用した野菜作り・直売会を通じた地域との交流を行っています。また、宮城県農村青年のつどいや農村青年教育会議など、他地区との交流にも積極的に参加しています。

登米市4Hクラブでは、会員を募集中です。農業に興味のある方、同世代の農業関係者と知り合いたい方など大歓迎です。興味のある方は下記連絡先にぜひ御連絡ください。

連絡先：登米農業改良普及センター地域農業班
TEL：0220-22-8603



耕作放棄地の耕起作業

登米市の元気ファーマー 柳 泰孝さん(米山町 米+いちご)



米山町の柳泰孝さんは、米といちごを家族とともに栽培しています。小さい頃から両親の作業を手伝い、農業を継ぐため宮城県農業大学校園芸学部で学び、平成31年4月に就農しました。就農後は慣れない作業も多く、大学で学んだことだけでは難しいことを実感すると同時に、日々の作業一つ一つが自分を成長させてくれていると感じています。将来的には、いちごの経営規模を拡大したいと考えています。

また、大学在籍時に4Hクラブとの交流会で、当時の登米市4Hクラブ会長と知り合った際に4Hクラブの活動内容や様々な経験を積めること知り、地元就農後すぐに登米市4Hクラブに加入し、昨年度から事務局長を務めています。耕作放棄地を利用した栽培プロジェクトや登米市農村青年教育会議での発表を通じての意見交換など、将来を担う若手農業者達と親睦を深め共に切磋琢磨しています。今後は、「技術を高め、地域の担い手となれるよう頑張っていきたい。」と意気込みを語ってくれました。